
一緒にいれば

ふあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一緒にいれば

【Nコード】

N1553D

【作者名】

ふあ

【あらすじ】

街の橋の下に、二匹の猫がすんでいました。その猫、ネネとニニはいつも一緒です。どんなにつらい事があっても、一緒に頬をくっつけあえば、幸せな気持ちになれました。いつまでもこの幸せが続くと、二匹は信じていました。

その街には、広く大きな川が流れていて、広く大きな橋がかかっています。そして橋を支えている足の下、きらきらした川の水がよく見える河原には、二匹の猫がすんでいました。真つ黒な毛皮のネネと、それより薄い灰色の毛皮をした二匹は、とても仲良しで、いつも一緒です。

橋の下は、彼らが住むには少しばかり風通しが良すぎ、雨の日に川の水が増えると、二匹は橋の上まで避難しなければなりません。食べる物が見つからず、お腹がすいて眠れない日もあります。

でも、一緒に頬をくっつけていさえいれば、いつでも二匹は、幸せな気分になれるのでした。

この街には、たくさんの方がいます。ネネと二匹は、いつも橋の入り口に並んで座り、行きかう人たちを眺めていました。子供たちは二匹が大好きで、そこを通るたびに、頭を撫でていきます。あるお兄さんは、毎朝猫たちにおはようと声をかけていき、あるおばさんは、ときどき乾いた魚をくれました。

優しい人もいれば、怖い人もいました。

ある日、ある家の裏で食べ物をさがしていたネネは、その家の持ち主に、いやというほどぶたれ、必死で橋の下まで逃げました。ある日、土手の上を散歩していた二匹は、猫が嫌いな人に棒で叩かれ、必死で橋の下まで逃げました。

食べ物、いつも二匹で分け合って同じぶんだだけ食べていたので、お腹が空くのも一緒でした。

そんな悲しいときは、橋の下で頬をくっつけ合いました。どんなことがあっても、そうしていれば幸せになりました。いつも、二匹は一緒です。

一緒に、海までつづく川を眺めました。
どこまでも広がる星空を眺めました。

身体を寄せ合って、白く柔らかい雪を舐めました。

草だらけの土手で、おいかけっこをしました。

寒い冬、どんなに自分の身体が冷たくても、相手のからだはいつも暖かで、頬を寄せていれば、幸せでした。

冬が終わり、春がめぐり、夏の暑さがおさまれば、秋がやってきました。同じ数だけ季節を数え、同じ季節を過ごしました。

いつまでもこんなときが続くと、二匹は信じていました。疑ったことすら、ありませんでした。

雪の舞う夜、河原の住処へと、二匹は橋の上を駆けていました。

その足は軽やかに雪のじゅうたんを蹴っています。

高く大きな音がするのに気付き、ネネの後ろを走っていた二二は、振り向きしました。

今まで見たことないほどの強い光が、二二の視界全部を埋めつくし、その途端、横に押されて白い地面の上を転がりました。なにが起きたのか、二二には少しも分かりませんでした。

手すりにぶつかりかけた車は、そのまま方向を変えると、逃げるように向こうへ走り去っていきました。後には、赤い雪の上にネネが横になっていました。

二二は、ネネを呼びました。何度も、何度も、呼びました。でも、ネネは一度も返事をしてくれませんでした。ただ、ネネの周りの雪だけが、赤みを増していただけでした。

二二はネネに寄り添いました。いつも暖かいそのからだは、雪の様に冷たくなっていて、どれだけ側にいても、暖かくなってはくれませんでした。

頬をくつつけても、幸せにはなれませんでした。ただ、冷たい、ネネだったものが、そこにあるだけでした。

でも、二二は離れることができません。二二は泣きました。いつまでも、いつまでも泣きました。涙は枯れませんでした。こんなに悲しいことは初めてで、ただただ、泣き続けました。

日が昇り、やがて沈み、また昇って沈んで、それが何度繰り返さ

れても二二は泣きました。

だんだんと、柔らくさらさらだった二二の毛は、固くごわごわしたものになっていきました。気持ちよくぴんと伸びていた尻尾も冷たい雪の中に埋もれ、小さいそのからだは、更に小さくなりました。ある雪の降る寒い夜、ようやく涙は枯れ、二二は雪の様に冷たくなりました。その身体が動くことは、二度とありませんでした。

動かない猫の身体を、人達はいやな目で見ていきました。大人たちは悪口を言い、子供たちはそこを避けて歩き、やがて、二匹の姿はそこから無くなりました。しばらくして、みんな、二二とネネのことを忘れてしまいました。

空の雲の上から、二匹はそれを眺めていました。一緒に頬をくつつけあって、それをずっと見ていました。

やがてみんなが二匹のことを忘れてしまうと、一緒に雲を蹴って空を駆け上りました。もう二度と離れることはありません。また幸せになれた二二の横にはネネが、ネネの横には二二がいます。

白く光る空の向こうへ、二匹はどこまでもどこまでも、駆け上がっていきました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1553d/>

一緒にいれば

2010年10月15日20時53分発行